

百僧百味供養を厳修 落慶に10万人集う

インド禅定林

釈迦如来像の開眼法要も行われた。

インドの禅定林（サンガラトナ・マナケ・法天住職）で本堂落慶

法要が、二月八日、天台座主（名代）森川宏映、探題大僧正を大導師に行われたⅡ写真。僧俗

辞令が、叡南門主から山田・梅山・渡辺座主ゆかりの仏具が、サンガ師に渡された。

合わせ約二百五十人が日本から渡印、百僧百味供養をもって厳修された法要は、十万人を超える現地信徒が集まる壮大なものとなった。また、同時に、毘沙門堂門跡門主叡南寛範大僧正を導師に本尊

アンベードカル博士による改宗式による仏教の再興から半世紀が経つも、インドでの仏法興隆には今後も困難な道程が予想され、サンガ住職の益々の活躍が期待されている。

